

地域完結型の医療を目指して

世羅中央病院院長 末廣 眞一さん

末広院長は、平成14年4月に赴任され、以来献身的に地域の医療を守ってこられました。以降業績も伸び、全国でも数少ない黒字経営の病院となっています。院長にお聞きしました。

Q 現在の、自治体病院の危機はどこから来ていると思いますか。

A 一つは、町村合併の広域化による弊害だと思います。県内に13の国保病院があり、行政と密着し地域医療と福祉を守っていた実績が、市町と合併しコスト主義で自治体から財政支援が途絶えたこと。

二つ目は、研修制度改革により、大学医局に医師が在籍せず派遣が困難になっていることが上げられます。

Q 全国の病院が医師不足に悩む中、世羅中央病院は、常勤医師12人増員されましたが。

A 自治体や議会の理解がある事が大きいと思います。そういう面は敏感に感じます。この病院に残る残らないは、お金ではないのです。個々が正當に評価されているかが重要です。患者さんの態度によっても左右されます。

Q 都会の病院では、夜間救急が、待ち時間が少なくて済み、軽症でも受診する、いわゆるコンビニ受診が問題になっていますが、どうですか。

A 世羅は、受診制限すると我慢してしまう傾向にあり、手遅れにならないよう早期受診



来年度155床に増床される完成予想図

を呼びかけています。

他にも、いろいろな検査をして病名にたどり着いたあと、いざ手術となった時、他の病院を紹介してくれとなると心底ガッカリしますが、反対に、患者さんから、感謝の言葉を掛けられると、苦勞も吹っ飛びます。有難いです。

Q 今後の病院はどのようにしたいと考えておられますか。

A この病院が田舎にあっても、質の高い医療を提供し、この病院で完結できるように、外科・内科の総合医で診察できる診療体制にしたいと思っています。優秀なスタッフと、市内と変わらない医療器械が整っている世羅中央病院は、それが出来る病院だと思います。また、病院ごとに、特徴ある診療科を持つことも必要と考えます。そのためには200床を越える病院にし、さらに機能を充実することだと考えます。

本日は、有難うございました。

福田 義人

表紙紹介



世羅中央病院チームも参戦

「どろんこバレー」

8月29日に旧黒川保育所前の田んぼで行われた、商工会青年部主催の第8回どろんこバレーのシーン。この大会も回を重ねるごとに盛会になり、県内外から約500人50組以上のエントリーがあり競った。

今町が描いている全町農村公園化構想には、こうした皆さんの活力が推進の原動力になると思う。

編集後記

7月14日の豪雨災害は多くの被害が発生した。それに係わる補正予算も決定した。

何かが変化しつつある事を感じるのには私だけであろうか。

気候、国際情勢、人間関係、めまぐるしく変化する今の時代に、この町も振り回されているようにも感じる。21年度決算も無事認定されたが、これが、

次年度にどのような反映されるのか、世の中が激しく変化する状況では疑問である。

私たち議員も激しく変化する状況を的確に捉え、冷静な判断力により一層前向きに進みたい。そして、町の動きが誰にでも判りやすいよう「議会だより」も工夫を重ねていくのでご意見、ご指導をお願いしたい。

(松本)

議会を傍聴してみませんか
次回の定例会は12月です

日程は無線放送でお知らせします。
またケーブルテレビでも本会議の中継をしています。

委員長／福田 義人
副委員長／松本 秀治
委員／西田美喜男・安佐 長秀
福田 豪・仙光 保喜

議会広報公聴
調査特別委員会

議員の寄附は罰則をもって禁止されています。議員に寄附を求めることも禁止されています。
年賀状など(答礼のための自筆によるものを除く)を出すことも禁止されています。